

# 獣医師 トム・ロンズデール

P0 Box 6096  
Windsor Delivery Centre  
NSW 2756  
Australia

Phone: +61 2 4578-1389  
Fax: +61 2 4578-1384  
E-mail: tom@rawmeatybones.com  
Web: www.rawmeatybones.com

© 2006年1月

## 家庭の犬と猫のための食事の手引き

ディンゴや野猫は、丸ごとの餌動物のカーカス（屠体）を食べることで健康を維持しています。理想的には、我々のペットにも同様の食べ物を与えるべきなのです。丸ごとのカーカスが確実に調達できる状況になるまでは、飼い主は納得のいく代替が必要になります。下記の骨付き生肉を基礎とする提案は、何千人もの飼い主に採用され、素晴らしい成果を上げています。

この食事法は、簡単に実践でき、安くて、ペット達も喜びます。

- ・水は、常に飲めるようにしておく。
- ・骨付き生肉（又は入手可能ならばカーカス）は、食生活の大部分を占めるべし。
- ・食卓の残り物は、加熱調理された物でも、生の物でも、どちらでも（野菜は、すり下ろす又は液状にし、加熱調理した骨は破棄する）。

### 子犬と子猫

子犬や子猫は、生後3週齢くらいから母親が食べているものに興味を持つようになります。生後6週齢になると、鶏やウサギのカーカスや魚を食べられるようになります。

生後3週齢から6週齢の短い期間は、ミンチした鶏肉や、鶏のカーカス、又はそれと同様のものを与えるのが望ましく（それと、噛みちぎったり、噛み裂いたり、といった食べ方を促すために、もう少し大きめのものも与えておくとよいでしょう。）これは、野生の肉食動物の母親が半消化状態の食べ物を吐き戻して与えるのと似ています。体格の大きな子犬は小さい子よりも、追加の食べ物が必要になります。（肉と骨は、一緒にミンチすべきです。骨がついていない肉も与えられますが、それは、骨と肉と一緒に食べられるようになるまで、通常生後6週齢くらいまでの短い期間だけにしてください。）

生後4ヶ月～6ヶ月になると子犬や子猫は、永久歯が生え初め、成長も速くなります。この時期、彼らは、適したサイズのカーカスや骨付き生肉が沢山必要になります。

子犬や子猫は、自然な食べ物を食べ過ぎない傾向にあります。食べ物は常に食べられる状態にしておくことができます。

## 肉食のペットに適した自然食

### 骨付き生肉

- ・人間が食べる部分が切り取られた後の、鶏や七面鳥のカーカスは犬や猫に適しています。
- ・家禽副産物（頭、足、ネックや手羽を含む）。
- ・丸ごとの魚や魚の頭。
- ・山羊、羊、子牛、鹿、カンガルーのカーカスは、骨と肉の大きな塊に切ることができます。
- ・その他副産物（豚足、豚の頭、羊の頭、ブリスケット、テール骨、リブ骨を含む）。

### 丸ごとのカーカス

- ・ラット、マウス、ウサギ、魚、鶏、ウズラ。

### オフアール（臓物）

- ・肝臓、肺、気管、心臓、オマズム（反芻動物の胃）、トライプ

### 質、量、回数

自然界に暮らし繁殖する健康な動物は、適切な「質」の食べ物を、適「量」、そして適切な「回数」、食べることに依存します。彼らは、それによって適した栄養摂取と共に、適度の歯のクリーニングを得ています。動物は人間と違い、食べている時に歯磨きと歯間の掃除が行われるのです。

### 質

脂肪が少ない狩猟動物や魚、鳥は、肉食のペットにとって最高の食料になります。家畜の肉（牛、羊、豚）を使う場合は、過剰な脂身や食べられない程大きな骨は避けてください。犬は、肉と骨を一緒に食べている時よりも、大きなゲン骨や、縦に切ったある骨を食べている時の方が、歯を折ってしまう可能性が高いです。

猫に与える生食は、常に新鮮でなければなりません。犬は「熟成」した食べ物を食べられるため、時折、後で食すために骨を埋めておくことがあります。

### 量

ペットに与える食事の量を確立することは、科学というより芸術に近いものがあります。親御さん達は、人間の家族に食事を与える際、食物摂取表の助けなしにその仕事をこなします。ペットの場合も、活動レベルや食欲、身体状態に注意することで同じように良い結果が得られるのです。

活動量が多く旺盛な食欲は、食事量を増やす必要性を示し、そしてその逆もまた然りです。

身体状態は、いくつかの要素によって判断されます。全体的な体型、即ち、筋肉質か、それとも丸々と太っているか、そして毛艶も、ヒントになります。貴方の指先で皮膚

の弾力性を確認してみてください。皮膚には弾力性があり、筋肉の上を抵抗なく動きますか？筋肉は、引き締まっていますか？肋骨周りには、どれくらい筋肉がついているように感じられますか？肋骨周りには、貴方のペットが痩せすぎていないか、太りすぎていないかをチェックするのに最適です。貴方自身の肋骨とペットの肋骨を比較することで、貴方とペットの両方の身体状態が大体把握できます。

骨付き生肉を基礎にした、平均的な猫犬のおおよその食物摂取量の目安は、週に体重の15%～20%、或は、一日あたり体重の2%～3%です。その基準でいくと、25kgの犬なら、週に5kgまでのカーカス、或は骨付き生肉が必要となります。体重が5kgの猫は、週におよそ1kgの、鶏のネック、魚、ウサギ又は同様のものを必要とします。食卓の残り物は、食事の追加的要素として与えるべきです。これらの数字は、家庭環境における大人のペットの目安にすぎないという点にご注意ください。

妊娠中や授乳中の雌や、成長期の子犬や子猫は、同じ体重の大人の動物よりも、さらに多くの食べ物が必要になるかもしれません。

可能な限り、与える定量の肉と骨は、噛み裂いたり、噛みちぎったり、齧ったりすることがかなり必要になる大きな一つの塊として与えるようにしてください。そうすることで、ペットは満足し、歯も綺麗になります。

## 回数

野生の肉食動物は、不規則な間隔で食事をします。家庭環境の場合は、規則的な方がうまくいくので、大人の犬や猫には、毎日一回の食事をおすすめします。暑い気候の地域にお住まいの場合は、ハエがたかるのを防ぐために夕方に与えることをおすすめします。

野生の動物達と同様に、飼い犬も毎週1日か2日は、絶食させることをおすすめします。

時には、ストックしてある自然食を切らしてしまうこともあるかも知れません。そのような時は、人工的な餌を購入したくなる気持ちを我慢して、その日は犬を絶食させ、翌日、自然食を十分仕入れてストックしてください。

子犬、猫、フェレット、病気又は痩せている犬は、獣医の指示がない限り、絶食させるべきではありません。

## 食卓の残り物

野生の肉食動物は、獲物の内臓を食べる際、液状になった半消化状態の雑食動物の食べ物を少量食べています。我々の食卓の残り物や、少しばかりの果物や野菜の皮などは、消化される前の雑食動物の食べ物といえます。食卓の残り物は、食生活の大きな割合を占めなければ、害にはならないようで、なんらかの良い効果があるようです。犬に与える食卓の残り物は、食事全体の3分の1までを上限とし、猫には、それよりもいくらか少ない量をおすすめします。食卓の残り物は、加熱調理された物でも、生の物でも、キッチンのミキサーで液状にすると、消化性が高まるかもしれません。

## 避けるべきもの

- ・過剰な量の骨なし肉 --- バランスが悪い。
- ・過剰な量の野菜 --- バランスが悪い。
- ・小さい骨 --- 丸呑みできてしまうため詰まる可能性がある。
- ・加熱調理された骨 --- 詰まる。
- ・ミネラルやビタミンの添加物 --- 偏りを引き起こす。
- ・加工食品 --- 歯の病気やその他の疾患につながる。
- ・澱粉質を過剰に含む食べ物 --- 胃拡張／鼓腸症と関連がある。
- ・タマネギ、ニンニク、チョコレート --- ペットには有害。
- ・ぶどう、レーズン、サルタナ、スグリ --- ペットには有害。
- ・核果類の種やトウモロコシの芯 --- 詰まる。
- ・牛乳 --- 下痢と関連がある。動物は、喉が渴いているかどうかにかかわらず、牛乳を飲んでしまうため、結果的に太ってしまう。牛乳の滓（おり）は、歯と歯茎にくっつきます。

## 注意すること

- ・加工食品に中毒になっている高齢の犬や猫は、自然食に変える際、最初は苦戦するかもしれません。
- ・変形した顎や歯科疾患のあるペットは、自然食が食べづらいかもしれません。
- ・種類に変化をつけてください。どんな栄養でも、過ぎれば害になります。
- ・肝臓は、素晴らしい食物ですが、週に1回以上は与えるべきではありません。
- ・牛の胃など、その他オフアールは、食事の50%を超えてはいけません。
- ・丸ごとの魚は、肉食動物にとって最高の食料ですが、同じ種類の魚を与え続けるのは避けてください。  
鯉のように、種類によってはチアミン（ビタミンB1）を破壊する酵素が含まれているものがあります。
- ・一番太った犬や最速の犬のための優等賞などありません。食事は、ペット達が生涯健康でいるために与えてください。  
予防は治療に勝るのです。

## その他の秘訣

家庭犬や猫は肉食動物です。彼らにふさわしい肉食の食事を与えることは、彼らの健康と幸福に最も重要な貢献をすることを意味します。

できるだけ早い段階で、肉食ペットのための食物を扱う信頼できる仕入れ先を確保してください。

食べ物は、在庫を切らすことがないように、バルク（大量購入）で仕入れるようにしてください。

円滑に食事が与えられるように、毎日の食事分は個別に袋詰めしておいてください。

冷蔵の保管場所、（冷凍庫の方が望ましい）は、必須です。骨付き生肉は、アイス

クリームのように冷凍されたまま与えることができます。凍ったままを食べるペットもいれば、解凍するのを待つペットもいます。

ラット、マウス、小鳥などの小さいカーカスは、内臓が入ったまま冷凍状態で与えることができます。大きなカーカスの場合は、冷凍する前に内臓を除去すべきです。

ペット同士が食べ物の取り合いで喧嘩をしないように気をつけてください。

人間の子供の安全のために、ペットが食べている時は邪魔をさせないでください。

餌皿は必要ありません。食べ物は、床の上を引きずられていきますので、可能ならば外で与えるか、簡単に洗浄できるタイプの床の上で与えてください。

フェレットは小さい肉食動物ですので食事は猫と同じように与えられます。

必要栄養量についてのより詳しい説明や、潜在的な危険性については、書籍「骨付き生肉 - 健康を促進」或は、「驚きの健康効果、犬に与える骨付き生肉」をご参照ください。

さらなる情報、リンク集、そして「RMB - 骨付き生肉」のニュースレターはこちらから：

<http://www.rawmeatybones.com>

**重要：**個々の動物と事情はそれぞれ異なる可能性があることをご留意ください。貴方のペットのニーズについて、貴方の獣医と相談する必要があるかもしれません。

この食事の手引きは、自由にコピーし配布することができます。